

(4) 産業人口の状況

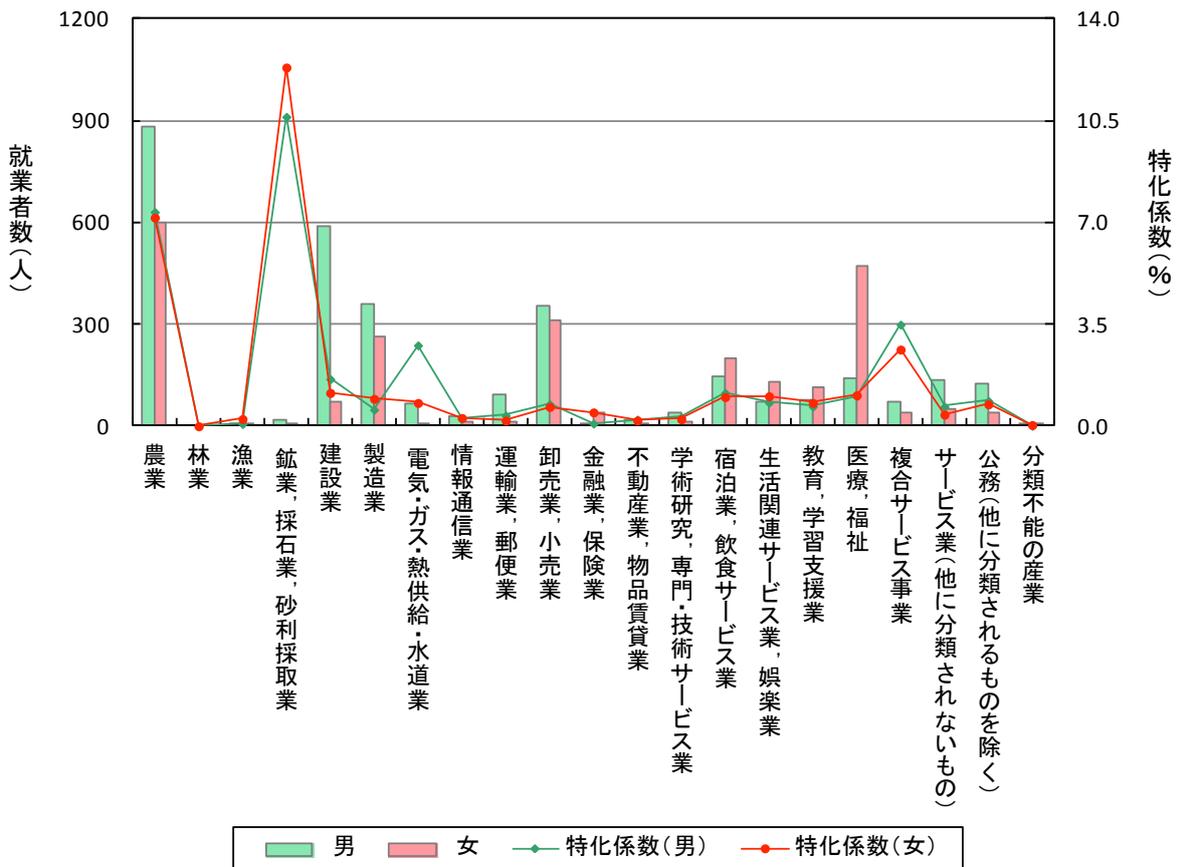
①性別にみた津南町の産業人口（就業者数）

性別産業人口は、男性では農業、建設業、製造業、卸売業・小売業の就業者が特に多くなっている。女性では農業、製造業、卸売業・小売業、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業等が多くなっている。

全国と比較した特化係数（※1）は、町内での就業者数は少ないものの男女とも鉱業・採石業・砂利採取業が特に高くなっている。また、就業者数が最も多い農業についても特化係数は男女とも 7.0 を超えている。さらには、男女とも複合サービス事業の特化係数は高水準となっている。

主要産業の就業人口の推移をみると、最も就業者の多い農業は、平成 2 年は 2,555 人であったが、平成 22 年には 1,477 人と大きく減少している。近年では、医療・福祉の就業者数が微増傾向にある。

図 1.17 性別にみた津南町の産業人口（就業者数）



出典：平成 22 年度国勢調査

※1：X産業の特化係数について

本町のX産業の就業者比率÷全国のX産業の就業者比率で算出した。

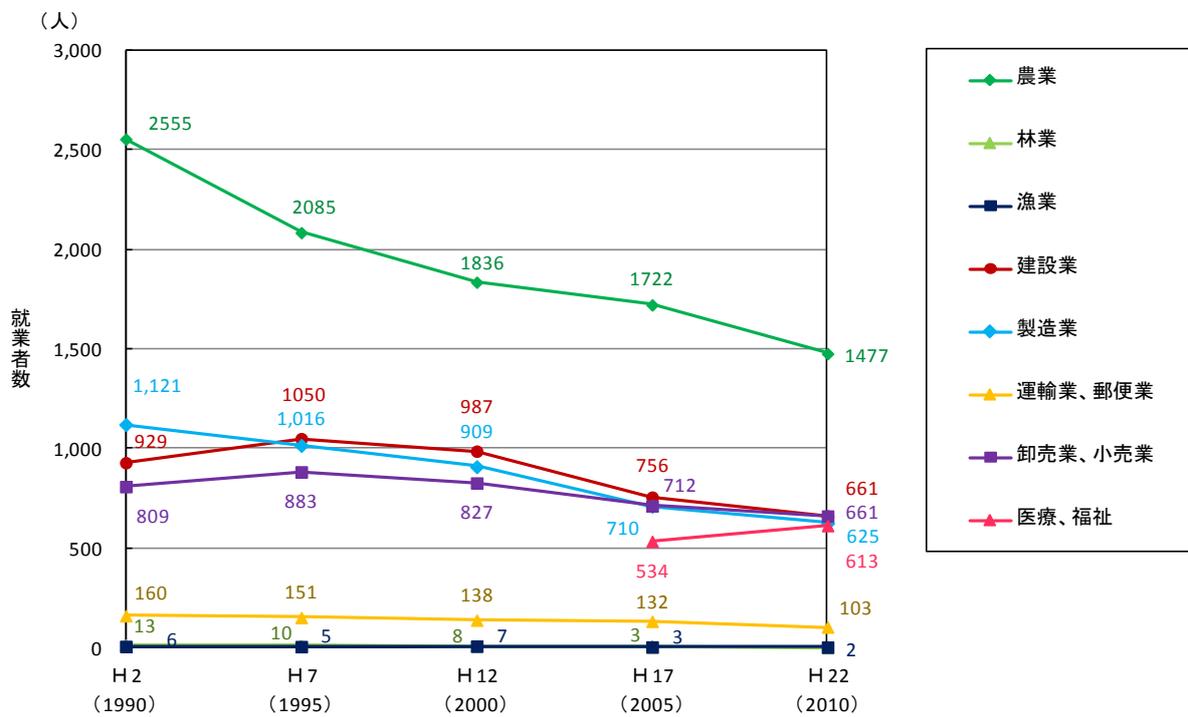
1.0 以上の場合、全国平均と比して特化傾向にあるといえる。

※2：複合サービス事業について

複数の大分類にわたる各種のサービスを提供する事業所のこと。

一例として、「日本郵便」、「農林水産業協同組合」等がある。

図 1.18 主要産業における津南町の産業人口（就業者数）の推移



出典：平成 22 年度国勢調査

※H22「運輸業、郵便業」は、H17は「運輸業」+「情報通信業」、H12以前は「運輸・通信業」

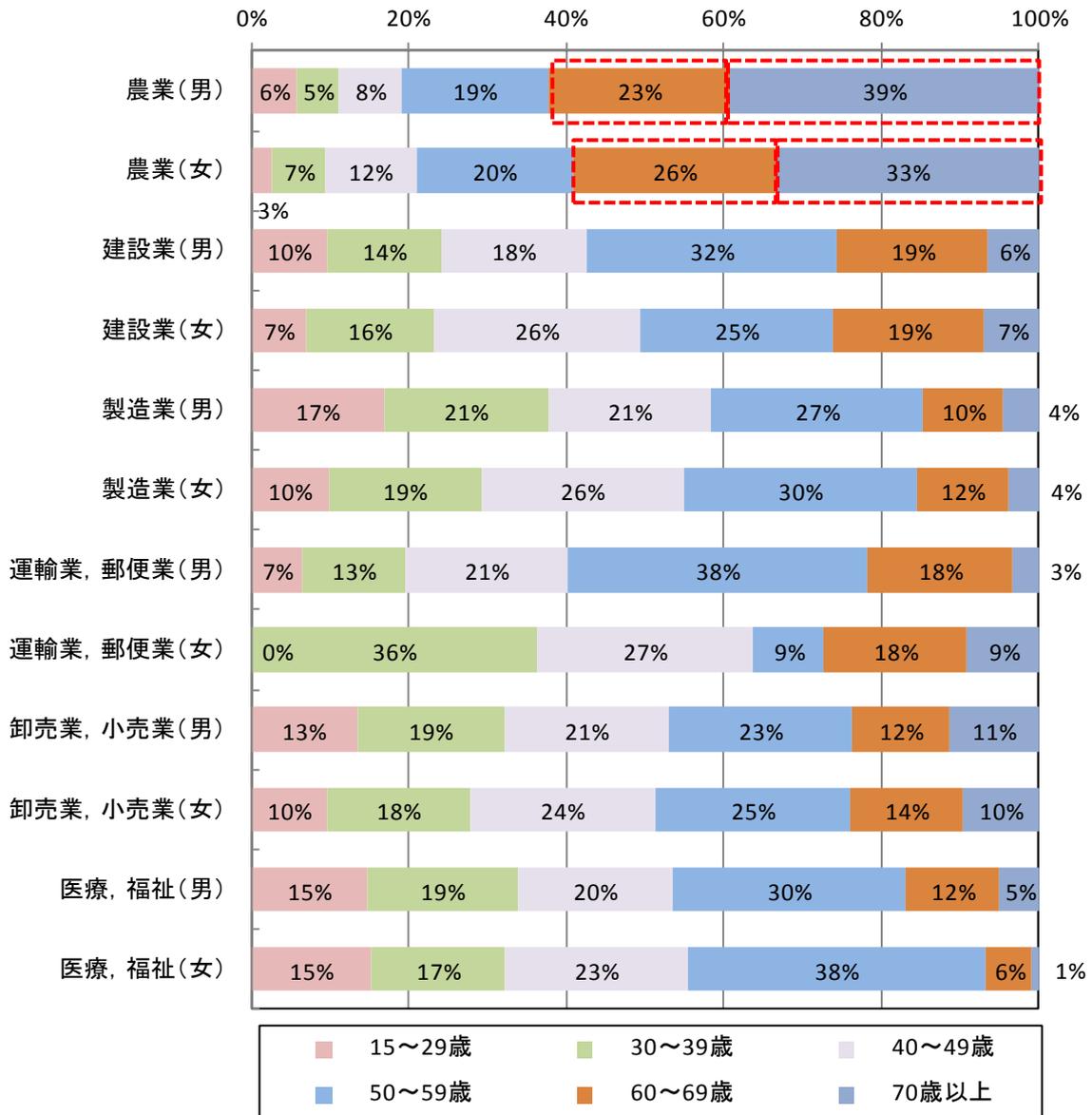
※H22「卸売業、小売業」は、H12以前は「卸売・小売業、飲食店」

※「医療、福祉」はH17以降のみ

②性別にみた主要産業における年齢階級構成

年齢階級別の人口割合は、男女ともに農業では 60 歳以上の割合が高く、全体の 60%前後を占めている。また、農業は 50 歳未満の割合が他の産業に比べて低くなっている。

図 1.19 性別にみた主要産業における年齢階級構成



出典：平成 22 年度国勢調査